

会 議 名	第4回協働によるまちづくりに関する意見交換会 地域でのささえあい
開 催 日 時	平成31年2月12日(火) 18時30分~20時30分
会 場	中央公民館 第1ホール
出 席 者	33名
講 師 (ファシリテーター)	合同会社 Active Learners 共同代表 山ノ内 凜太郎 ・ 米元 洋次
概 要	<p>1. 開会</p> <p>2. アイスブレイク</p> <p>3. 情報共有「協働によるまちづくり条例にかける想い」</p> <p>4. グループワーク</p> <p>①「みんなで話したい、狭山の福祉が抱えている課題」を参加者から募集</p> <p>②課題解決のための協働による解決策を提案</p> <p>5. 閉会</p>
グループワークで 出た意見	<p><グループワーク①、②で出た意見(抜粋)></p> <p>課 題:「何かやりたい人」と「新しい仲間を増やしたい」グループ(人)のマッチングがうまくできていない。</p> <p>解決策:「定年退職者集まれ大会」の開催→サークルづくり、仲間づくり</p> <p>課 題:高齢者の移送や8050問題(大人の引きこもり問題)が他人事となっている</p> <p>解決策:ほめる仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しい体験、頼られて嬉しい体験をとにかくしてみる ・子どもの頃から「ほめる」「みとめる」 ・CMなどわかりやすいもので訴える <p>課 題:高齢者と子育て世代の見守り</p> <p>解決策:現在あるサロンに子育て世帯と高齢者の幅広い世代の交流の場を作る</p> <p>特技や興味のある分野ごとの外に出るきっかけづくり</p> <p>茶の花号や社会福祉協議会等のバスの空き時間を利用したツアー</p> <p>課 題:外出を好きな時にできないのが課題</p> <p>解決策:自動運転を利用した移動(本田技研工業株式会社との共同研究)</p> <p>行政との市民との情報共有</p> <p>課 題:高齢者と子どもの地域の関わりが少ない。</p> <p>解決策:勤務先と子どもを預かる場所を一緒に</p>

父親が育児参加できるような学びの場づくり

アクティブシニアの雇用

<アンケート結果（抜粋）>

Q1：今回の意見交換会に参加してどう思いましたか？

- 各地区に多くの課題があり、短時間では解釈できないが、諦めずにやることが一義だと思った
- 色々な立場の方の気持ちが聞けてよかった
- 多くの活動者が集まってくれた。もっと広い意味での「福祉」で人が集まるといい
- 狭山市の地域の活性化を真剣に考える方との意見や発信を聞くことができ、有意義な時間であった
- “狭山”を思って発言する人々との交流ができ、嬉しかった
- あまり人前で話すのは得意ではないですが、思い切って発表できてよかった
- みなさんの狭山市のまちづくりに対する熱意を感じることができ、嬉しく思った
- 様々な方の意見や考え、知恵が聞けて学べた。具体的な出口を意識して話すことができた
- 様々な方と様々な視点から一つの課題に対し意見交換ができて有意義だった

Q2：あなたが感じた課題は何ですか？

- 高齢者の見守り（特に外に出てこれない方への見守り）
- 自分に何ができるかを考える。活動者を増やす
- 福祉、とりわけ地域福祉と支えあいという課題が重要だと思いました
- 活動者の後継者不足（新しい人材さがし）
- 高齢者や子育て世代が外に出るきっかけづくり、仕組みづくりが必要だと思いました
- 高齢化の進む中、地域の方々との見守り支援が必要と思いました。思っただけではなく、何か手助けを・・・と考えています
- 福祉を自分のこととして捉えているつもりだが、この気持ちを、この輪をどのように広げていけばよいか課題です
- 福祉、健康、防災を一つとして取り組めればと思います。
- 人と人のつながりをどう作っていくか
- 今回の参加者以外の方をどう取り込んでいくか
- 拠点作り
- アイデアを実現する、又はこのアイデアは本当に役立つのかどうかを検討する場があるといい

- ほめる仕組みづくり
- 現在活動しているNPO法人の必要性をより身近に感じて模索しながら、よりすみやすい街にしていくために、進めていきたい
- 活動者の発掘、高齢になっても元気であること
- まだまだ情報発信が不十分であること、ネットワークが完全に構築されていないこと
- 引きこもりの高齢者と子育て中のお母さんが孤立する問題。共通の解決案が必要
- 狭山市独自の福祉サービス（狭山市の特色にあった）を市民と一緒に考えること

Q3：協働を進めていくために何が重要だと思いますか？

- できない、無理と言わない、言われたい、思わせたいの行動力が必要
- まずは市民の方々がその気になること、そして行政がバックアップする体制
- 活動の場づくり
- 繋がり合う関係機関が相互に理解すること
- 単体ではなく、複合的に考えていくこと
- 多くの人に参加する場（参加すると楽しいと思える場）
- 思っていること、感じていること、あったらいいなということがそれぞれに表現できて、聞いてくれる場があること
- 前向きな意見交換をする機会
- 市民と行政の情報共有
- 市民一人一人の自覚とそれを展開していく力
- 共に必要なことを全体で助け合う
- やらされている感ではなく、自分なりの充実感
- 「協働」と「ささえあい」という言葉を結びつける説明が必要ではないかと感じた
- 人材の育成、拠点の確保
- 市民、行政の理解

Q4：協働するにあたりあなたは何ができると思いますか？

- 地域での小さなことの継続で地域の活性化に結び付けたい
- 活動者の頑張りを少しでも多くの人に可視化すること
- 一市民としての意見・要望を出しながら動けることをすること
- ボランティア活動を通して、幸せ感をもっといただける活動ができれば良いし、自身も幸せに思いながら活動を続けたい
- 関係づくりをすすめていく
- リーダーシップをとる
- 様々な人達と関わりを深めていくことで、自分の役割を探したい

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">• 便利屋。今までの経験を生かしたいと思います• 子育て世代や高齢者の方の意見を聞く機会に咲かして、学んできたものを生かしながら支援できたらと思う• 自分の持つ情報や知識の発信。必要な人への情報を届ける人を繋ぐ• 母親が集まれる場を作ること。保育での学びを通してニーズを知ること、伝えること• 話し合いの場に参加し、様々な意見を聞き、何が必要なものなのかを知ることから始める |
|--|---|